

北村透谷参考文献目録

——明治二十二年～昭和十九年——

鈴木 一 正

要旨 本目録は、明治二十年代に活躍した詩人・評論家の北村透谷（一八六八～一八九四）の参考文献目録で、「単行本」「雑誌特集号」「新聞・雑誌・単行本等所収論文」の三つに分け、それぞれ発行順に並べたものである。

収録期間は、透谷最初の著書（『楚囚之詩』）刊行の明治二十二年から昭和十九年までの五十六年分で、小生作成の「北村透谷参考文献目録」昭和二十一年～昭和五十年」（『国文学研究資料館紀要』第26号、平12・3）と「北村透谷参考文献目録」昭和五十一年～平成九年」（『桶谷秀昭ほか編『透谷と現代』21世紀へのアプローチ』翰林書房、平10・5）の「前に」続くものである。

この期間を対象とした透谷の参考文献目録はいくつか作成されているが（付記参照）、本目録では、これら目録に未収載の文献を加えるとともに、なるべく現物を確認し、正確を期すことにした。また、先行目録が省略してきた巻号や副題を加え、さらに単行本所収の情報も付加した。いわば本目録は、先行参考文献目録の増補改訂版といふべきものである。この三者を合わせると、明治二十二年から平成九年までの百九年分の目録（発行年月順）となる。

凡 例

一、本目録は、小生作成の「北村透谷参考文献目録―昭和二十一年―昭和五十年―」（国文学研究資料館紀要）第26号、平12・3）の前に続くもので、その続きには、「北村透谷参考文献目録―昭和五十一年―平成九年―」（桶谷秀昭ほか編『透谷と現代 21世紀へのアプローチ』翰林書房、平10・5）があり、さらに、それ以降の分は、「時空」に連載中である（平成十一年分まで）。

一、本目録の構成は、「1単行本」「2雑誌特集号」「3新聞・雑誌・単行本等所収論文」から成る。「2」の内容容細目は「3」で掲げた。

一、収録期間は、副題が示すとおり、明治二十二年（一八八九年）から昭和十九年（一九四四年）までの五十六年分である。

一、排列は、月単位で発行順に並べた。同月内は、著者名の五十音順とし、雑誌等で同時に複数の論文掲載の場合は、掲載順とした。ただし、週刊紙（誌）、日刊紙は、同月内の後に月日順に並べた。

一、タイトルは、原則として目次ではなく、本文のものを採用した。副題（サブタイトル）は、なるべく採用するようにしたが、所収書名の副題は省略した。なお、副題の表記は記載のとおりとした。

一、雑誌等の巻号は、なるべく採用するよう努めた。

一、単行本は「」、雑誌等は「」で示し、叢書名・特集名等、補足的事項は（～）を用いた。また無署名の場合は、著者名欄に―――で表示し、著者名の判明したものは「」内に補記した。その他、必要に応じて注記した。

一、連載・分載の場合は、一括で記入し、著者名の上に*印を付した。

一、原則として、雑誌等の「初出」によった。初出不明、未確認の場合は、単行本所収時のものを記載した。
なお、所収書名は、↓「」で示した

1 単行本

百田宗治 『鑑賞 透谷詩選』〈詩鑑賞叢書4〉(金星堂、昭4・2・15)

福田正夫 『透谷碑と小田原』(小田原透谷会、昭5・5)

阪本越郎 『北村透谷』〈教養文庫63〉(弘文堂書房、昭15・8・25)

舟橋聖一 『北村透谷』(中央公論社、昭17・1・15) 昭44・10に日本ソノ書房版

2 雑誌特集号

北村透谷号 (『民衆』第5号、大7・5・16) 昭43・9に明治文献、昭58・8に教育出版センターから復刻版

特輯 北村透谷 (『明治文学研究』第1巻第4号、昭9・4・1)

3 新聞・雑誌・単行本等所収論文

【明治期】

〈'89〉—— 『巖本善治』 『楚囚之詩』〈書評〉(『女学雑誌』第160号、明22・5・4)

〈'91〉雲峰生 『蓬萊曲』〈書評〉(『女学雑誌』第269号、明24・6・13)

- 『蓬萊曲』〈書評〉（『読売新聞』明24・6・13）
- 亀鶴子 『蓬萊曲』〈書評〉（『日本評論』第32号、明24・6・25）
- 別天楼 『長沢別夫』 『蓬萊曲』〈書評〉（『亜細亜』第1号、明24・6・29）
- 透谷上人〈雜録〉（『宗教』第1号、明24・11・5）
- 〈'92〉 近刊雑誌〈時文評論〉（『早稲田文学』第18号、明25・6・30）「我牢獄」評
- 「星夜」の主人公となりし男「桜井明石」 脱蟬子に与へて其「星夜」を評す（『女学雑誌』第32号、明25・7・16）↓星野慎之輔編『透谷集』文学界雜誌社、明27・10
- 「星夜」の主人公となりし男「桜井明石」 又脱蟬子へ（同右）↓星野慎之輔編『透谷集』文学界雜誌社、明27・10
- 近松浄瑠璃（マ）の分析〈時文評論〉（『早稲田文学』第22号、明25・8・30）「歌念仏」を讀みて」評
- 『女学雑誌』〈文界彙報〉（『早稲田文学』第24号、明25・9・30）
- 史伝、人物評〈文界彙報〉（『早稲田文学』第26号、明25・10・30）「心機妙変を論ず」評
- 小説界〈文界彙報〉（同右）「他界に対する觀念」に言及
- 批評界〈文界彙報〉（同右）「処女の純潔を論ず」「他界に対する觀念」評
- 柳江子 脱蟬子の評語に就て（『国会』第614号、明25・11・30）
- 〈'93〉 謫天情仙〔野口寧齋〕 透谷庵主宿魂鏡〔続五君咏〕（『城南評論』第11号、明26・1・21）
- 初陣子 宿魂鏡〈国民之友新年附録評判〉（同右）
- 古藤庵〔島崎藤村〕 北村透谷に寄す（六子に寄すの詩）〈詩〉（『文学界』第1号、明26・1・31）↓『藤

村全集」第16卷、筑摩書房、昭42・11

無名氏 文学界〈批評〉(「国民之友」第18号、明26・2・13) ↓「近代文学評論大系1」角川書店、昭46・10

愛山生 明治文学史第二(「国民新聞」明26・3・5) ↓「山路愛山集」(明治文学全集35)筑摩書房、昭

40・10。『山路愛山集(一)』(「民友社思想文学叢書第2卷」三一書房、昭58・11

愛山生 凡神的唯心的傾向に就て(「国民新聞」明26・4・16) ↓「山路愛山集」(明治文学全集35)筑摩書

房、昭40・10。『山路愛山集(一)』(「民友社思想文学叢書第2卷」三一書房、昭58・11

愛山生 唯心的、凡神的傾向に就て(承前)(「国民新聞」明26・4・19) ↓「山路愛山集」(明治文学全集

35)筑摩書房、昭40・10。『山路愛山集(一)』(「民友社思想文学叢書第2卷」三一書房、昭58・11

愛山生 的面生に与ふ(「国民新聞」明26・7・23) ↓「山路愛山集(一)』(「民友社思想文学叢書第2卷」

三一書房、昭58・11

—— 新刊雜誌〈文界現象〉(「早稲田文学」第48号、明26・9・25)「情熱」評

—— 「三浦泰一郎?」透谷と蝶(「護教」明26・10・14)

〈94〉時事子「宮崎湖処子」 劇海の改革派(透谷庵及其一派)(一)〈文海時事〉(「国民新聞」明27・2・28)

—— 「エマルソン」(書評)(「早稲田文学」第63号、明27・5・10)

—— 北村透谷氏逝く(「東京朝日新聞」明27・5・17)〈新聞記事〉

—— 芝公園内の縊死(「都新聞」明27・5・17)〈新聞記事〉

—— 著述家の縊死(「やまと新聞」明27・5・17)〈新聞記事〉

- 鉄幹 文友北村透谷を吊す（『二六新報』第147号、明27・5・18）
- 北村透谷子逝く（『小日本』第74号、明27・5・18）〈新聞記事〉
- 愛山生 北村透谷君（『国民新聞』明27・5・22）↓「明治文学研究」第1巻第4号、昭9・4。『山路愛山集』（明治文学全集35）筑摩書房、昭40・10。『山路愛山集（二）』（民友社思想文学叢書第2巻）三一書房、昭58・11
- 正味「岡野知十」時鳥われも死にたくなりにつけり（『小日本』第78号、明27・5・22）
- 謫天情仙「野口寧齋」悼透谷庵主（漢詩）（『読売新聞』明27・5・22）↓「早稲田文学」第64号、明27・5・25
- 北村透谷子（『国民之友』第227号、明27・5・23）
- 滄浪漁長 厭塵囂／養詩神（漢詩二首）（『早稲田文学』第64号、明27・5・25）
- 透谷子逝く（文界現象）（同右）
- 透谷北村君の逝くを追ふ（『女学雑誌』第381号、明27・5・26）
- 禿木 蝉羽子を吊ふ（『文学界』第17号、明27・5・30）↓星野慎之輔編『透谷集』文学界雑誌社、明27・10。『平田禿木選集』第5巻、南雲堂、昭61・10
- 戸川残花 北村透谷君をいたみて（詩）（同右）↓『北村透谷集 附文学界派』（日本現代文学全集9）講談社、昭40・4
- 名は死後に留めたし（『国民之友』第228号、明27・6・3）
- 巖本善治 透谷北村君を吊ふ（『評論』第25号、明27・6・5）

願はくは花下に死せん（同右）

湖処子 透谷庵を懐ふ（「国民新聞」明27・6・5）

故北村透谷君追悼会（「雑録」）（「女学雑誌」第383号、明27・6・9）

〔巖本善治〕 透谷北村君を吊ふ（同右）

故透谷子の追悼会（「文界現象」）（「早稲田文学」第65号、明27・6・10）

機曲生 北村透谷を吊す（「裏錦」第20号、明27・6・16）

残月 北村透谷を吊ふ（同右）

故北村透谷子（「文界現象」）（「早稲田文学」第66号、明27・6・29）

田山花袋 北村透谷君をいたみて（「短歌一首」）（「文学界」第18号、明27・6・30）

透谷子追悼会（「記事」）（同右）

流水生（「三浦泰一郎」） 故北村透谷君（「青山評論」第48号、明27・6・30）

近頃の雑誌界（統）（「国民新聞」明27・7・1） 禿木「蝉羽子を吊ふ」を取り上げる

贄田江東 哭北村透谷 律一首（「漢詩」）（「評論」第26号、明27・7・24）

明石居士 月下恋を讀みて（「追憶、北村透谷」）（「評論」第29号、明27・10・8）

空花生「浅田空花」 月下恋 月下透谷子を懐ひ出でて。（同右）

星野慎之輔 例言（「星野慎之輔編『透谷集』文学界雜誌社、明27・10・8）

明石居士 月下恋を讀みて 月下透谷子を懐ひ出でて（「女学雑誌」第40号、明27・10・13）

空花生「浅田空花」 月下恋（「詩」）（同右）

みすゞのや主人「金子筑水」『透谷集』を讀みて（『早稲田文学』第74号、明27・10・25）↓『現代文学論大系』第6卷、河出書房、昭29・10

——『巖本善治』透谷集を讀む（『女学雑誌』第403号、明27・10・27）

—— 仮名垣魯文翁北村門太郎二氏の長逝（『武相』第33号、明27・11・22）

天知 透谷庵を悼む（韻文）（『文学界』第23号、明27・11・30）

稚松庵主人 透谷集を讀みて君の特性を想ふ（『函東会報告誌』第39号、明27・12・4）

〔95〕青年文記者「田岡嶺雲」青年文学者の自殺（時文）（『青年文』第1卷第4号、明28・5・10）↓『田岡嶺雲全集』第1卷、法政大学出版社、昭48・2

—— 透谷は生たり（随感）（『女学雑誌』第410号、明28・5・25）

戸川残花 一年は夢の間にすぎぬ今日は北村透谷ぬしの世をさり給ひし日なりと思ひいで、よめる（詩）（『文学界』第29号、明28・5・30）

青年文記者「文学界」の変調（時文）（『青年文』第1卷第6号、明28・7・10）↓『田岡嶺雲全集』第1卷、法政大学出版社、昭48・2

島崎藤村 亡友反古帖（『女学雑誌』第415号、明28・10・25）↓星野慎之輔編『透谷全集』文武堂、明35・10。

——『藤村全集』第1卷、筑摩書房、昭41・11

〔96〕残花 透谷子よ（『文学界』第39号、明29・3・30）

—— 今昔の感（時文）（『文学界』第43号、明29・7・30）

〔100〕——『透谷集』の再版（『文界雑報』）（『文庫』第15卷第2号、明33・7・15）

〈02〉星野天知 序文（星野慎之輔編『透谷全集』文武堂、明35・10・1）

戸川秋骨 序文（同右）

平田禿木 亡友を吊ふ（同右）

蘇峰生 透谷全集を読む（『国民新聞』明35・10・5）（日曜講壇）↓「明治文学研究」第1巻第4号、昭

9・4。『読書余録』民友社、明38・6。平5・3にゆまに書房（書目シリーズ33）から復刻版

*愛山生 透谷全集を読む（『信濃毎日新聞』明35・10・11、13）↓『山路愛山集』（明治文学全集35）筑摩書

房、昭40・10。『山路愛山集（二）』（民友社思想文学叢書第3巻）三一書房、昭60・2

〈03〉烏水 透谷全集と子規隨筆（論評）（『文庫』第22巻第3号、明36・1・15）

維舟 『透谷全集』（書評）（『帝國文学』第9巻第2号、明36・2・10）

齋藤冬子 紀念の日記（『女学雑誌』第518号、明36・7・25）

〈05〉松岡荒村 相国寺の幽林に透谷を懷ふ（『荒村遺稿』白柳武司、明38・7）↓「明治文学研究」第1巻第4号、

昭9・4。昭38・5に明治文献から復刻版

一記者 『文学界』の歴史（『文庫』第30巻第2号、明38・11・3）

〈06〉島崎藤村 北村透谷君（明治文士の悲惨なる最後の状況）（『新古文林』第2巻第11号、明39・9）↓『新片町

より』左久良書房、明42・9。『藤村全集』第6巻、筑摩書房、昭42・4

戸川残花 北村透谷（同右）（同右）

有磯逸郎 忘れられたる文士（『文章世界』第1巻第8号、明39・10）

坂本易徳（『紅蓮洞』 故北村透谷（『明星』午歳第10号、明39・10）

岩城準太郎 新文学の勃興（『明治文学史』育英舎、明39・12）明42・6に増補版。昭2・10に修文館書店から増補改訂版。昭57・11に日本図書センター（『明治大正文学史集成5』）から増補版の復刻版

（'07）蒲原有明〈談〉 日本詩の発達せざる原因（『新声』第16編第1号、明40・1）

蒲原有明 詩壇の回想（『文章世界』第2巻第1号、明40・1）

宿魂鏡 北村透谷／透谷集 北村透谷（『明治名作解題』（『文章世界』第2巻第4号、明40・4、臨時増刊（詩と文））

岩野泡鳴 僕の回想（『文章世界』第2巻第5号、明40・4）↓『泡鳴全集』第11巻、国民図書、大10・9

山路愛山 北村透谷を懐ふ（『文章世界』第2巻第6号、明40・5）↓『山路愛山集（二）』（民友社思想文学

叢書第3巻）三一書房、昭60・2

———「解説」（『文章世界』第2巻第7号、明40・6）「富嶽の詩神を思ふ」の解説

蒲原有明 新しき声（『文章世界』第2巻第11号、明40・10、臨時増刊（文話詩話）

———「解説」（『文章世界』第2巻第12号、明40・10）「秋窓雜記」の解説

平田禿木 『文学界』時代（『趣味』第2巻第12号、明40・12）

（'08）岩野泡鳴 新体詩史 第三章（『新思潮』（第1次）第6号、明41・3）

*島崎藤村 春（小説）（『東京朝日新聞』明41・4・7、8・19）135回連載↓『春』島崎春樹、明41・10。『藤

村全集』第3巻、筑摩書房、昭42・1

———「窪田空穂」 北村透谷（『文章世界』第3巻第6号、明41・5、臨時増刊（近代三十六文豪））↓

『窪田空穂全集』第11巻、角川書店、昭40・3

みづほのや 小説界に於ける時代の創始者（『文章世界』第3巻第8号、明41・6）

北村氏未亡人（談） 『春』と透谷（『早稲田文学』〔第2次〕第32号、明41・7） ↓勝本清一郎編『透谷全集』第3巻附録、岩波書店、昭30・9

小島烏水 余が好む作家及び作物（『文庫』第37巻第3号、明41・7）

町の人 『春』の中の人物―『文学界』当時の状態―（『文章世界』第3巻第9号、明41・7）

太田みづほ 韻文界の時代創始者―明治の詩想変遷史―（『文章世界』第3巻第11号、明41・8）

馬場孤蝶 事実と『春』（『新潮』第9巻第2号、明41・8）

相馬御風 北村透谷私観（文芸研究会課題）（『早稲田文学』〔第2次〕第34号、明41・9） ↓『黎明期の文学』新潮社、大1・9。『相馬御風著作集』別巻1（『初期評論集』、名著刊行会、昭56・6）

〔N〕 文芸研究会（同右） 鳥村抱月・吉江孤雁・相馬御風ら10名によるの座談会の記録

三島霜川 私の文壇に接触した時分（『新潮』第9巻第3号、明41・9）

北村透谷未亡人（談） 国府津時代と公園生活（『新天地』第1巻第1号、明41・10）（『文士遺族及び未亡人の懐旧談』 ↓『北村透谷』（『日本文学研究資料叢書』有精堂出版、昭47・1）

岡野知十 透谷の故宅（『新半面』明41・11）

紅蓮洞 「春」の青木と余が知れる透谷（『読売新聞』明41・12・13）

〈09〉平田禿木 『文学界』と当時文界（『文壇回顧録』（『趣味』第4巻第4号、明42・4）

相馬御風 真の文芸家（『文章世界』第4巻第8号、明42・6）

田山花袋 明治名作解題（『小説作法』（『通俗作文全書第24編』博文館、明42・6）『宿魂鏡』『透谷集』を取り

上げる

太田水穂 近世批評史論続（趣味）第4巻第8号、明42・8）

吉野臥城 「透谷全集」〔詩集解題〕／「蝶のゆくへ」〔分類詩例〕〔『新体詩研究 明治詩集姉妹篇』昭文堂、明

42・9）

〔10〕岩城準太郎 旧文芸破壊の運動（『帝国文学』第16巻第1号、明43・1）

相馬御風 透谷と独歩（『創作』第1巻第4号、明43・6）↓『相馬御風著作集』別巻1（『初期評論集』、名著

刊行会、昭56・6

島崎藤村 北村透谷君（『創作』第1巻第5号、明43・7）↓『藤村全集』第6巻、筑摩書房、昭42・4

島崎藤村 北村透谷の故家（『新思潮』〔第2次〕第1号、明43・9）（『写真解説』↓『藤村全集』第6巻、筑

摩書房、昭42・4

北村美那子 文士の夫人の見たる文士及其家庭（『新潮』第13巻第5号、明43・11）

〔11〕*北村美那子 透谷の晩年と其言行（『学生文芸』第2巻第3、4号、明44・3、4）↓勝本清一郎編『透谷全

集』第3巻附録、岩波書店、昭30・9

三島霜川 北村透谷の文章を評す（『文章世界』第6巻第7号、明44・5）

〔12〕児玉花外 雷霆（『紅噴隨筆』岡村盛花堂、明45・1）

馬場孤蝶 北村透谷 過渡時代の情熱ある思想家（明治の重なる文学者の新研究（其四））（『新潮』第16巻

第4号、明45・4）

秋田雨雀 透谷のインフルエンス（同右）

北村美那子 家庭に於ける故北村透谷（「成功」第23巻第3号、明45・7）

【大正期】

島崎藤村 北村透谷の短き一生（「文章世界」第7巻第14号、大1・10、増刊〈明治文学の概観〉）↓『後の新

片町より』新潮社、大2・4。島崎藤村編『透谷選集』新潮社、大3・12。『藤村全集』第6巻、筑摩書房、昭42・4

〔13〕*島崎藤村 桜の実（小説）（「文章世界」第8巻第1、2号、大2・1、2）↓『桜の实の熟する時』春陽堂、大8・1。『藤村全集』第5巻、筑摩書房、昭42・3

愛山生 夷隅河畔より（「時人論」）（「独立評論」再興第8号、大2・9）↓『山路愛山集』〈明治文学全集35〉筑摩書房、昭40・10

〔15〕三木露風 透谷（「露風詩話」）（「白日社」、大4・9）
清水柳三郎 明治文壇の三天才（「中学世界」第18巻第14号、大4・11）高山樗牛・北村透谷・樋口一葉を取り上げる

〔17〕小林愛川「加藤武雄」 文学界―透谷（「明治大正文学早わかり」）（「文章入門叢書」）新潮社、大6・6）↓『明治大正文学の輪郭』新潮社、大15・9

〔18〕*島崎藤村 透谷の名によりて集りし作品及びその作家（「中央文学」第2年第4号、第3年第1号、大7・4、8・1）↓『藤村全集』別巻、筑摩書房、昭46・5

田熊保行 透谷を憶ふ（「短歌」）（「民衆」第5号、大7・5）（「北村透谷号」）

井上康文 北村透谷小伝（同右）

津田光造 開拓者北村透谷（同右）

井上康文 詩人としての北村透谷（同右）

福田正夫 北村透谷に就いて（同右）

〔19〕平田禿木 故北村透谷君の事ども（『中央文学』第3年第7号、大8・7）（『文豪追想号』）↓『明治文学研究』

第1巻第4号、昭9・4。『平田禿木選集』第5巻、南雲堂、昭61・10

〔20〕柳沢 健 詩壇の鳥瞰―『昨日の詩及詩人』―（『現代の詩及詩人』尚文堂、大9・10）

〔21〕高須梅溪 哀世詩人としての北村透谷／評論家としての北村透谷（『近代文芸史論』上巻、日本評論社出版部、

大10・5）↓『明治文学史論』日本評論社、昭9・10

島崎藤村 飯倉だより（北村透谷二十七回忌に）（『大観』第4巻第7号、大10・7）↓島崎藤村編『改編透

谷全集』春陽堂、大11・3。島崎藤村編『北村透谷集』（岩波文庫）昭2・7。『藤村全集』第9巻、筑摩書

房、昭42・7

島崎藤村 透谷未亡人の現状（『時事新報』大10・10・7）↓『藤村全集』第9巻、筑摩書房、昭42・7

〔22〕島崎藤村 序（島崎藤村編『改編透谷全集』春陽堂、大11・3・15）

土居光知 雑誌「文学界」と平田禿木（『新小説』第27年第4号、大11・4）

日夏耿之介 日本近代詩の成立（『中央公論』第37巻第11号、大11・10）↓『明治大正詩史』巻上、新潮社、

昭4・1

〔23〕田山花袋 芽のやうな北村透谷／透谷と「文学界」（『近代の小説』近代文明社、大12・2）目次のタイトルに

よる

〈24〉高須芳次郎 森鷗外一派と『文学界』の人々／北村透谷の人生批評と大西操山の文明批評／新体詩界の第一歩

と新国文の興起（『日本現代文学十二講』新潮社、大13・1）↓『明治大正昭和文学講話』新潮社、昭8・

9

小島徳弥 北村透谷と「文学界」のこと（『文壇百話』新秋出版社、大13・3）

小方又星 北村透谷の回想―彼の三十年忌日に際して―（『新潮』第40巻第5号、大13・5）

*島崎藤村 透谷君の三十回忌に 遺族と全集を語る（『読売新聞』大13・5・16、17）↓『春を待ちつゝ、』春

陽堂、大14・3。『藤村全集』第9巻、筑摩書房、昭42・7

戸川秋骨 至純熱狂の人北村透谷君（『随筆文鳥』奎運社、大13・6）

本間久雄 北村透谷の人と事業とを憶ふ（『早稲田文学』〔第2次〕第220号、大13・6）↓『文学論攷』東京堂

書店、昭6・5。『近代作家論』白鳳出版社、昭22・7

福井久蔵 文学界に生まれた新詩人（『日本新詩史』立川文明堂、大13・7）

馬場孤蝶 藤村氏の『春』に描かれたる人々／『文学界』のこと（『孤蝶隨筆』新作社、大13・10）

〈25〉宮島新三郎 『文学界』の運動（『明治文学十二講』新詩壇社、大14・5）昭7・6に東京出版社から改訂版。

昭12・2に改訂普及版

岩城準太郎 新文学建設の主張／新体詩界の曙色（『明治大正の国文学』成象堂、大14・6）昭6・4に増訂

版。昭57・11に日本図書センター（『明治大正文学史集成9』）から復刻版

河井醉茗 詩の最初より梅花透谷まで（『早稲田文学』〔第2次〕第232号、大14・6）（『明治文学号 胎生期の研

究』

島崎藤村 文学界の生れた頃（同右）↓『藤村全集』第9巻、筑摩書房、昭42・7

小島徳弥 「文学界」の人々とその懷疑思想／新時代の先駆者北村透谷（『明治大正 新文学史観』教文社、大

14・6）

緑蒼々 透谷未亡人と語る―遺族訪問記（6）―（『文章倶楽部』第10巻第7号、大14・7）

徳富猪一郎 随筆文鳥を読む（『第二 蘇峰随筆』民友社、大14・12） 戸川秋骨著『随筆文鳥』の批評

〔26〕井上康文 透谷・独歩・花袋の詩（『現代の詩史と詩講話』交蘭社、大15・1）↓『増補改訂 新らしい詩及詩

人とその変遷』交蘭社、昭6・4

馬場孤蝶 眉山 緑雨 透谷―春寒き夜に―（『早稲田文学』〔第2次〕第243号、大15・4）（『明治文学研究第5

号』↓『明治文壇の人々』三田文学出版部、昭17・11。十川信介編『明治文学回想集』下、（岩波文庫）平

11・2

高須芳次郎 文芸評論界の新人群起／美文及び写生文流行時代（同右）

平田禿木 若い折の藤村君（『文章往来』第1巻第4号、大15・4）（『藤村号』）

二階堂雨山 明治文壇の鬼才北村透谷を懐ふ（『国学院雑誌』第32巻第5号、大15・5）

山名正太郎 明治から大正への遺書と絶筆（『婦人公論』第11巻第8号、大15・8）

糸井武雄 春 島崎藤村作（『明治大正 小説とそのモデル』章華社、大15・12） 戸川秋骨「北村透谷の家」を

収録

〔昭和期〕

〔27〕百田宗治 日本小詩史（『詩の本』金星堂、昭2・1）

——「福田正夫」 北村透谷小伝／透谷著作年表（樋口一葉集・北村透谷集）（現代日本文学全集第9編）
改造社、昭2・1・20）

A、B、C 「文学界」の運動（改造社文学月報）第1号、昭2・1）（同右附録）

紙魚生 文学界の五羅漢（同右）

戸川秋骨 透谷の苦勞性（同右）

戸川秋骨 北村透谷君と私（改造）第9巻第2号、昭2・2）

百田宗治 日本の近代詩について——その詩史的概叙——／北村透谷（詩の鑑賞 附・西欧近代詩の知識）厚生
閣書店、昭2・2）「雙蝶のわかれ」を収録

佐藤春夫 明治文学史手引草（明治文学とその人々）（改造）第9巻第6号、昭2・6）↓「慵斎雜記」千歳
書房、昭18・1。「定本佐藤春夫全集」第20巻、臨川書店、平11・1

佐藤春夫 透谷。樗牛。また今日の我々の文学／文明批評及び信念ある文学（文芸時評）（中央公論）第42年
第7号、昭2・7）↓「文芸一夕話」改造社、昭3・7。「定本佐藤春夫全集」第20巻、臨川書店、平11・

1
千葉亀雄 文芸家自殺史（新潮）第24年第10号、昭2・10）
斎藤清衛 フユマニスト透谷——明治前期に於けるルネサンスの先覚——（国文教育）第5巻第11号、昭2・11）
内田幾太郎 明治詩史概観／北村透谷（参考 現代詩選 明治篇）覚張書店、昭2・12）「眠れる蝶」「雙蝶の
わかれ」「ゆきだをれ」を収録

（28）中野重治 芥川氏のことなぞ（文芸公論）第2巻第1号、昭3・1）↓「芸術に関する走り書き的覚え書」

改造社、昭4・9

徳富蘇峰 北村透谷集を読む（『好書品題』〈蘇峰叢書第4冊〉）民友社、昭3・4）平5・3にゆまに書房（書目シリーズ33）から復刻版

木村 毅 『文学界』を中心にしての断想（『明治文学展望』）改造社、昭3・6）

新屋敷幸繁 現代文学の範囲／現代文学の生活的流れ／北村透谷の作品鑑賞（『現代文学の鑑賞』）大同館書店、昭3・10）「蝶のゆくへ」「眠れる蝶」「松島に於て芭蕉翁を読む（抄）」を収録

橘 文七 北村透谷―蓬萊曲（『明治大正文学史』）啓文社書店、昭3・12）目次のタイトルによる。↓『近代

日本文学の鳥瞰』大誠堂、昭10・6。『日本文学変遷史』大伸堂書店、昭10・11

湯地 孝 未完成の詩才（『日本近代詩の発達』不老閣書房、昭3・12）

〔29〕北原白秋 明治大正詩史概観（『現代日本詩集・現代日本漢詩集』〈現代日本文学全集第37編〉）（改造社、昭4・4・15）「楚囚之詩」を収録

平林初之輔 日本に於ける浪漫派の先駆者としての北村透谷（『新潮』第26巻第9号、昭4・9）↓『平林初之輔遺稿集』平凡社、昭7・2

南江二郎 劇詩と長篇敘事詩（百田宗治編『日本現代詩研究』〈現代詩講座第4巻〉）金星社、昭4・10）昭8・5に巧人社版

〔30〕河井醉茗 現代詩の展望 明治、大正、昭和詩史概観（『現代詩人全集』第1巻〈初期十二詩人集〉、新潮社、昭5・5）「ゆきだふれ」「ほたる」「蝶のゆくへ」「雙蝶のわかれ」「眠れる蝶」「露のいのち」「鬮舞」「弾琴」「み、ずのうた」「春駒」「楚囚之詩」を収録

塩田良平 文学界／北村透谷（『本文頭註 明治文学史抄』大鏡閣、昭5・9）「内部生命論」を収録

風巻景次郎・児山信一 北村透谷（『明治文学（詩歌）評釈』（国文学講座）受験講座刊行会、昭5・10）略伝を付す。「眠れる蝶」「蝶のゆくへ」を収録

瀬沼茂樹 心理文学の発展とその帰趨（『思想』第10号、昭5・10）

北村透谷（『文豪遺墨展を観る（1）』（『読売新聞』昭5・10・24）

島崎藤村 北村透谷を憶ふ言葉（同右）↓『藤村全集』第13巻、筑摩書房、昭42・9

〔31〕土岐善磨 文学界の出現（土岐善磨編著『明治大正史』第5巻（芸術篇）、朝日新聞社、昭6・2）

本間久雄 透谷とバイロン―英国浪漫派とわが明治文壇―（早稲田大学欧羅巴文学研究会『浪漫思潮 発生の

研究』三省堂、昭6・2）↓『文学論攷』東京堂書店、昭6・5。『明治文学作家論』早稲田大学出版部、

昭26・10

田山花袋 明治の小説―自然主義と写実主義―（佐藤義亮編『明治時代（上編）』（日本文学講座第11巻）新潮

社、昭6・5）

日夏耿之介 明治新詩の展開（同右）

塩田良平 北村透谷（『岩波講座日本文学』岩波書店、昭6・6）↓『近代日本文学論』万上閣、昭10・5

塩田良平 浪漫主義と国民之友―浪漫主義私見三―（『国文学誌』第1巻第4号、昭6・8）

滝田貞治 「文学界」を思ふ―その再刻に就いて―（『書物展望』第1巻第2号、昭6・8）

片岡良一 明治時代（日本文学史概説（五））（『岩波講座 日本文学』岩波書店、昭6・10）↓『近代日本文

学の展望』中央公論社、昭16・5

再生外骨 北村透谷（再生外骨編『近世自殺者列伝』半狂堂、昭6・12）

—— 明治大正詩人小伝（『明治大正文学全集』第36卷〈詩篇〉、春陽堂、昭6・12）「雙蝶のわかれ」「眠れる蝶」「み、ずのうた」を収録

〔32〕 蛭原八郎 明治時代文学雑誌解題（『月刊日本文学』第2巻第4号、昭7・3）〈特輯 明治文学大観号〉「文学界」の解題を含む。↓日本文学社編『明治文学史集説』日本文学社、昭7・6。『明治文学雑誌』学而書

院、昭10・7

雅川 湜 自然主義文学理論の展開（同右）↓日本文学社編『明治文学史集説』日本文学社、昭7・6

湯地 孝 近代詩の展開相（上）（同右）↓日本文学社編『明治文学史集説』日本文学社、昭7・6

斎藤清衛 透谷と「春」（『国語と国文学』第9巻第1号、昭7・4）〈明治文豪論〉

篠田太郎 浪漫的文学（『史的唯物論より観たる近代日本文学史』春陽堂、昭7・4）

広沢影樹 小田原町と詩―北村透谷の事など（『愛誦』第7巻第4号、昭7・4）

舟橋聖一 北村透谷（舟橋聖一編註『明治文学新選』大倉広文堂、昭7・4）「鬼心非鬼心（抄）」を収録

山宮 允 新詩の発生及び展開 前篇（『日本国民』第1巻第1号、昭7・5）↓『明治大正詩書綜覧 本文篇』啓成社、昭9・12

武藤直治・日夏耿之介 北村透谷（藤村作編『日本文学大辞典』第1巻、新潮社、昭7・6）昭25・5に増補改訂版

形田藤太 明治文学評論史序説（『月刊日本文学』第3巻第4号、昭7・9）

唐木順三 透谷、樗牛の浪漫主義／二葉亭・透谷・啄木（『現代日本文学序説』春陽堂、昭7・10）↓『唐木

順三全集』第1巻、筑摩書房、昭42・6

藤村 作・久松潜一 矢崎嵯峨の舎と北村透谷（『明治文学序説』山海堂出版部、昭7・10）目次のタイトルによる

吉田精一 「文学界」について（『文学』第18号、昭7・11）

原田芳起 透谷の文学論と想世界の人生的意義（『日本小説評論史序説』大同館書店、昭7・12）

（33）篠田太郎 北村透谷論（『クオタリイ日本文学』第1輯、昭8・1）↓『近代日本文学研究』楽浪書院、昭

9・10

唐木順三 明治文学に於ける自我の発展史（福田久道編『明治文学の特殊的研究（下）』（明治文学講座第4巻）

木星社書院、昭8・3）↓福田久道編『明治文学研究』成光館書店、昭8・7。『近代日本文学の展開』黄

河書院、昭14・6。『唐木順三全集』第1巻、筑摩書房、昭42・6

百田宗治 明治詩人研究（同右）↓福田久道編『明治文学研究』成光館書店、昭8・7

木枝増一 北村透谷の片貌―現代文学研究序説 その三―（『国語・国文』第3巻第3号、昭8・3）

新屋敷幸繁 詩人としての北村透谷（『日本文学』第3巻第3号、昭8・3）

斎藤昌三 明治の文芸雑誌（中）（『日本雑誌興亡史考 その10』（『書物展望』第3巻第6号、昭8・6）「文学界」を含む。↓『閑版 書国巡礼記』書物展望社、昭8・12。平10・8に平凡社（『東洋文庫639』）版

田中文夫 初期の象徴詩について（『国文学踏査』第2輯、昭8・6）

舟橋聖一 北村透谷略伝（『明治文学新講』（『新撰国文叢書』三省堂、昭8・6）「鬼心非鬼心」の本文及び口

訳、註解を付す

- 塩田良平 離尤三弁―神崎、篠田、吉野三君に―（「クオタリイ日本文学」第2輯、昭8・7）
- 土方定一 雑誌「文学界」、〔柵草紙〕文学評論年表（同右）
- 湯地 孝 「春」の形象（『明治大正文学の諸傾向』積文館、昭8・8）
- 神崎 清 北村透谷著作年表・透谷略伝・家譜（『明治文学談話会プリント』昭8・9）
- 馬場孤蝶 小説モデル物語（『野客漫言』書物展望社、昭8・9）
- 湯地 孝 新体詩変遷の展望（久松潜一ほか著『日本文学聯講』第5卷（明治篇）、中興館、昭8・9）
- 久松潜一 明治文学評論の展開（同右）
- 新認識への出発―北村透谷研究会（『国文学新報』昭8・9・25）
- 戸川秋骨 四十年前の「文学界」（『文学界』第1巻第2号、昭8・11）
- 川島益太郎 北村透谷（『現代作家の人及び作風（詩歌篇）』大同館書店、昭8・12）
- 村尾二郎 透谷覚え書（『国文学研究』第1輯、昭8・12）
- 〔34〕木下尚江 福沢諭吉と北村透谷―思想上の二大恩人―（『明治文学研究』創刊号、昭9・1）↓〔北村透谷〕
- （『日本文学研究資料叢書』有精堂出版、昭47・1）
- 新井 徹 透谷の逸詩（同右）
- 神崎 清 北村透谷著作年表 附、研究文献（同右）
- 座間太郎 ロマン的なるもの―北村透谷試論―（『椶の木』昭9・1）
- 新屋敷幸繁 北村透谷の日本文学観（『年刊日本文学研究』第1輯、昭9・1）
- 新井 徹 藤村氏に透谷をきく（『詩精神』第1巻第1号、昭9・2）「夢中の詩人」を収録

中野重治 透谷に就て（同右）

「夢中の詩人」に就て（同右）

河井醉茗 明治詩史概観（「愛誦」第9巻第2号、昭9・2）〈特輯 明治詩壇の再吟味〉

井上康文 北村透谷と島崎藤村（同右）

土方定一 わが国浪漫主義文学の展望（「明治文学研究」第1巻第2号、昭9・2）

神崎 清 北村透谷著作年表について（同右）

片岡良一 明治文学史総説（「明治文学研究」第1巻第3号、昭9・3）

神崎 清 北村透谷遺稿解説（「明治文学研究」第1巻第4号、昭9・4）〈特輯 北村透谷〉

桜井明石 透谷子を追懐す（同右）↓「北村透谷」〈日本文学研究資料叢書〉有精堂出版、昭47・1

巖本善治 満洲からの通信（同右）↓「北村透谷」〈日本文学研究資料叢書〉有精堂出版、昭47・1

星野天知 透谷君の思ひ出（同右）↓「北村透谷」〈日本文学研究資料叢書〉有精堂出版、昭47・1

星野まん ハムレットの講義（同右）

高安月郊 北村透谷と吾浪漫時代（同右）

斎藤清衛 透谷型（同右）

新井 徹 詩人としての北村透谷（同右）

神崎 清 島崎藤村と語る（同右）

岩崎萬喜夫 透谷と藤村（同右）

唐木順三 透谷一面観（同右）↓「近代日本文学の展開」黄河書院、昭14・6。「唐木順三全集」第1巻、筑

摩書房、昭42・6

山室 静 北村透谷についての断想―主としてその女性観恋愛観から―（同右）

村尾二郎 透谷の政治意識（同右）

座間太郎 不安の文学―透谷についてのノートから―（同右）

福田正夫 透谷碑をめぐる（同右）

斎藤昌三 透谷の碑（同右）

神崎 清 北村透谷略伝（同右）

土方定一 明治の文芸評論（山本三生ほか編『日本文学講座』第12巻〈明治大正篇〉、改造社、昭9・4）↓

『近代日本文学評論史』西東書林、昭11・6。昭23・9に昭森社〈思潮文庫3〉版。昭48・11に法政大学出

版局版

高須芳次郎 明治の美文と紀行文（同右）

平田禿木 「文学界」の回顧（同右）↓『禿木遺響 文学界前後』四方木書房、昭18・9

木村 毅 明治文学の総決算―その全面的展望―（『明治文学を語る』楽浪書院、昭9・5）

斎藤昌三 文学界（藤村作編『日本文学大辞典』第3巻、新潮社、昭9・6）昭26・4に増補改訂版

高安月郊 北村透谷（『高安乃里』書物展望社、昭9・6）

仲 賢札 評論史における透谷の地位（季刊『明治文学』第3輯、昭9・6）

星野天知 「文学界」雑誌顛末（『明治文学研究』第1巻第6号、昭9・6）

桜井明石 透谷子を追懐す（承前）（同右）↓『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）有精堂出版、昭47・1

徳富蘇峰、塩田良平記 明治文学余韻―蘇峰氏との一問一答録―〔国語と国文学〕第11巻第8号、昭9・8)

〔明治大正文学を語る〕

島崎藤村、塩田良平記 明治文学の発足点 (同右)

遠地輝武 北村透谷 (『近代日本詩の史的展望』耕進社、昭9・9)

川路柳虹 明治詩史 (山本三生ほか編『日本文学講座』第9巻〈新詩文学篇〉、改造社、昭9・10)

河井醉茗 明治の長詩鑑賞 (同右)

伊藤 整 「文学界」に拠れる詩人 (同右)

小牧健夫 透谷の墓 (『文芸春秋』第12巻第10号、昭9・10)

金山 正 「自然」に対する三者―透谷・独歩・武者小路― (『日本文学』第4巻第11号、昭9・11)

神崎 清校註 愛の書簡―石坂美那子嬢に与へたる― (『文芸』第2巻第11号、昭9・11) 「一生中最も惨憺た

る一週間」〔ミナ宛書簡一八八七年九月三日〕〔ミナ宛書簡一八八七年九月四日〕〔悲苦の世紀〕〔ミナ宛書簡

一八八七年十二月十四日〕〔ミナ宛書簡一八八八年一月二十一日〕〔嗟世に愛情より〕を収録

吉田精一 北村透谷の意味―「我牢獄」の分析― (季刊「明治文学」第4輯、昭9・11) ↓『近代日本浪漫主

義研究』東京武蔵野書院、昭15・7

宮崎湖処子 宮崎湖処子日記抄 (『明治文化研究』第4輯、昭9・12)

神崎 清 透谷遺稿の運命 (『書物展望』第5巻第1号、昭10・1)

永井一孝 新体詩の新調 (『明治文学史』敬文堂書店、昭10・1)

坂井衡平 透谷、藤村と文学界 (『現代国文学講話』文松堂、昭10・3)

(35)

神崎 清 熱海の一時間（透谷と逍遙）（『明治文学研究』第2巻第4号、昭10・4）（逍遙特輯号）

高橋 恵 新思想派（『明治大正文学史』文芸展望社、昭10・4）

原田芳起 透谷の文学論と想世界の人生的意義（『日本小説評論史序説』大同館書店、昭10・4）

福田正夫 詩人北村透谷を憶ふ（『詩人時代』第5巻第4号、昭10・4）

姥原八郎 文学雑誌書目解題（山本三生ほか編『日本文学講座』第17巻〈年表書誌篇〉、改造社、昭10・5）

「文学界」の解題を含む。↓『明治文学雑誌』学而書院、昭10・7

塩田良平 近代文学概観／女学雑誌と巖本善治（『近代日本文学論』万上閣、昭10・5）

増田五良 雑誌「文学界」のことども（『書物展望』第5巻第8号、昭10・8）

保田與重郎 他界の観念（『作品』第6巻第9号、昭10・9）↓『保田與重郎全集』第3巻、講談社、昭61・

1

比屋根安定 『旧約聖書』、『讚美歌』訳輯の人々―附、基督教文壇の出現―／明治時代の基督教文学―民友社、

『女学雑誌』、『文学界』その他―（『日本近世基督教人物史』基督教思想叢書刊行会、昭10・10）

木枝増一 内的生命観による文学意識―逍遙・透谷・樗牛・泡鳴・武郎に現れたる―（『国語・国文』第5巻

第12号、昭10・11）↓木枝増一・横田俊一『現代文学研究序説』東洋図書、昭13・7

（'36）島崎藤村 北村透谷（吉江喬松編『世界文芸大辞典』第2巻、中央公論社、昭11・1）↓『藤村全集』第13巻、

筑摩書房、昭42・9

伊藤信吉 北村透谷との交友／文学的交友の焦点／透谷とその悲劇／遺産の継承／『春』の透谷と藤村（『島

崎藤村の文学』第一書房、昭11・2）昭58・8に日本図書センター（近代作家研究叢書5）から復刻版

手塚 昇 北村透谷の解釈二三―山庵雜記中より―（『国語解釈』第1巻第1号、昭11・2）

石川 巖 北村透谷逸詩の発見（『書物展望』第6巻第3号、昭11・3）「二点星」「平家蟹」を収録

高須芳次郎 蓮華草―北村透谷（敍情篇）／自己を顧みる―北村透谷（日記篇）（高須芳次郎編『日本名文鑑

賞』第4巻（明治前期）、厚生閣、昭11・4）註解、解説、鑑賞より成る。「諸家経歴」を付す。日記篇は明治二十六年八月三十日、九月四日分。

相馬黒光 斎藤秀三郎氏のお冬さん／所謂プラトニック・ラブ／お冬さんの死／透谷とお冬さん（『黙移』女

性時代社、昭11・6・10）昭25・6に東和社版。昭36・11に法政大学出版局版（ほか）

土方定一 北村透谷と勃興する階級の浪漫主義（『近代日本文学評論史』西東書林、昭11・6）

馬場孤蝶 北村透谷君（『明治文壇回顧』協和書院、昭11・7・24）

久松潜一 浪漫主義の文学論（『日本文学評論史』近世・最近世篇）至文堂、昭11・10）

池田寿夫 北村透谷論（一） 浪漫主義の日本の性格（『星座』第2巻第12号、昭11・12）

保田與重郎 透谷に関して（『文芸懇話会』第1巻第12号、昭11・12）↓『保田與重郎全集』第4巻、講談社、昭61・2

〔37〕 秋庭太郎 劇文学に於ける透谷と古白（『明治の演劇』中西書房、昭12・3）

保田與重郎 明治の精神―御階の桜（『文芸』第5巻第3号、昭12・3）↓『保田與重郎全集』第5巻、講談社、昭61・3

―― 文豪北村透谷（足柄下郡教育会編『足柄下郡郷土読本』足柄下郡教育会、昭12・3）

河井醉茗 北村透谷（『明治代表詩人』第一書房、昭12・4）

逸見猶吉 北村透谷論（草野心平ほか編『現代日本詩人論』西東書林、昭12・5）↓森羅一編『逸見猶吉の詩とエッセイと童話』落合書店、昭62・2

北村透谷（近世文芸名家伝記資料）（『文芸懇話会』第2巻第5号、昭12・5）

*南条蘆夫 北村透谷論（『日本詩壇』第5巻第6、8号、昭12・7、9）

萩原朔太郎 透谷文学賞の設立について（『読売新聞』昭12・9・24夕刊）

本間久雄 北村透谷（『明治文学史』下巻、東京堂、昭12・10）

*宮沢三二 透谷の文学精神（『信濃教育』第612、613号、昭12・10、11）

笹淵友一 北村透谷と基督教（『青山文学』第50号、昭12・12）

正宗白鳥 透谷賞 文学と事業（『読売新聞』昭12・12・7夕刊）↓『子が一日一題』人文書院、昭13・12。

『正宗白鳥全集』第19巻、福武書店、昭60・9

（38）*正宗白鳥 文壇的自叙伝（『中央公論』第53年第2、7号、昭13・2、7）↓『文壇的自叙伝』中央公論社、昭13・12

山本正秀 透谷・藤村（『名詩鑑賞』）（『解釈と鑑賞』第3巻第2号、昭13・2）

塩田良平 明治浪漫主義の重要性（『明日香』第3巻第3号、昭13・3）

田中宏明 近代浪漫主義文学論攷—北村透谷の歴史性—（『思想と文学』第3巻第3冊、昭13・3）

吉田精一 近代浪漫主義の意義（『文学』第6巻第5号、昭13・5）↓『近代日本浪漫主義研究』東京武蔵野

書院、昭15・7

塩田良平 『宿魂鏡』—北村透谷（『近代小説』）（『日本文学大系第11巻』河出書房、昭13・7）

塩田良平 明治文学概説（『月刊文章』昭13・7、臨時号（明治の文章・明治の文学））↓『概観明治文学』人文書院、昭13・12。月刊文章編輯部編『明治の文学』厚生閣、昭13・12

陶山 務 透谷・緑雨・樗牛・梁川の文章（同右）↓月刊文章編輯部編『明治の文学』厚生閣、昭13・12

戸川秋骨 明治文学界への考察（同右）↓月刊文章編輯部編『明治の文学』厚生閣、昭13・12

星野天知 文学界雑誌の発行／北村透谷君の奇矯／『文学界』編輯の内容（ほか）（『黙歩七十年』聖文閣、昭13・10・12）

宇野浩二 文芸三昧（『二途の道』三和書房、昭13・12）

岡野他家夫 明治文学研究の方法／明治文学研究参考文献（ほか）（『明治文学研究誌』東京武蔵野書院、昭13・12）

蒲原有明 創始期の詩壇（『隨筆 飛雲抄』書物展望社、昭13・12）平1・10に日本図書センター（近代作家研究叢書66）から復刻版

（39）岡野他家夫 「三籟」と「やまと琴」（『日本古書通信』第115号、昭14・2）↓『書物から見た明治の文芸』東洋堂、昭17・12

神崎 清 北村透谷と石坂美那子（日本近代恋愛史3）（『婦人公論』第24卷第3号、昭14・3）↓『近代日本青春史』書物展望社、昭16・7。『恋愛古事記』雄鶏社、昭23・1

中野重治 現代文学におけるモラルの問題―狭く限定して―（特輯 道德の問題）（『思想』第203号、昭14・4）
↓『楽しい雑談 第三』筑摩書房、昭24・2

池田斎斐 他界の死 西行の人間についての覚え書（『文芸文化』第11号、昭14・5）

- 吉田精一 近代日本浪漫主義（「むらさき」第6巻第5号、昭14・5）
- 大内田実 北村透谷と島崎藤村（同右）
- 唐木順三 明治文学と不安の精神（『近代日本文学の展開』黄河書院、昭14・6）↓『唐木順三全集』第1巻、筑摩書房、昭42・6
- 富田 彬 北村透谷について（「学苑」第6巻第10号、昭14・10）
- 増田五良 『明治廿六年創刊「文学界」記伝』（聖文閣、昭14・12・15）昭49・4に国書刊行会から復刻版
- 〈40〉佐古純一郎 北村透谷論序説（上）（「古典近代」第2年第1輯、昭15・1）
- *舟橋聖一 歴史の一枚（北村透谷）（「文学界」第7巻第1号、第8巻第3、5、6号、昭15・1、16・3、5、6）〈小説〉↓『北村透谷』中央公論社、昭17・1
- 土方定一 近代日本文学と世界観（「古典研究」第5巻第3号、昭15・2、春季臨時増刊号〈国文学に於ける世界観〉）
- 伊藤信吉 詩人論 日本近代詩の歴史に就いて（「文学界」第7巻第3号、昭15・3）
- 高木市之助 楚囚之詩―とThe Prisoner of Chillon―（「九大国文学会誌」昭15・3）↓『高木市之助全集』第8巻、講談社、昭52・1
- 比屋根安定 基督教と明治文学との交渉（『日本基督教史』第5巻〈発展篇〉、教文館、昭15・3）
- 北村透谷著書一覽（有名著者別古書価一覽25）（『日本古書通信』第128号、昭15・3）「北村透谷略伝」〔透谷研究参考文献〕を付す
- 中河與一 透谷文学賞と日本文化協会賞（最近の文化、芸術賞）（「セルパン」第10巻第4号、昭15・4）

吉田精一 明治の浪漫主義（「解釈と鑑賞」第5巻第6号、昭15・6）

吉田精一 初期浪漫派（『近代日本浪漫主義研究』東京武蔵野書院、昭15・7）昭18・3に東京修文館版

関 良一 透谷と風雅（「寒雷」第67号、昭15・11）↓『考証と試論』二葉亭・透谷』教育出版センター、平

4・8

榊原美文 透谷の「蓬萊曲」について（『国文学研究』第15輯、昭15・12）↓『近代日本文学の研究』御茶の

水書房、昭31・6

本間久雄 透谷の浪漫主義（『明治の文学』ヘラジオ新書34）日本放送出版協会、昭15・12）

〔41〕片岡良一 明治浪漫主義の特殊性（『文学』第9巻第1号、昭16・1）

日夏耿之介 本邦に於けるパイロン熱（『輓近三代文学品題』実業之日本社、昭16・1）

吉田精一 初期浪漫主義の運動（『明治大正文学史』修文館、昭16・3）

片岡良一 明治文学史概説／近代日本文学の悲劇性（『近代日本文学の展望』中央公論社、昭16・5）↓『片

岡良一著作集』第3巻、中央公論社、昭54・6

井上康文 先駆者透谷碑（『山の随筆』三杏書院、昭16・8）

〔42〕安積卯一郎 透谷への私見（『水甕』第29巻第2号、昭17・2）

稲垣達郎 北村透谷―二三のノート―（『月刊文章』第8巻第4号、昭17・4）↓『稲垣達郎学芸文集』2、

筑摩書房、昭57・4

小田切秀雄 北村透谷と政治―その一資料として―（『文濠』第2号（第2巻第1号）、昭17・7）↓『人間と

文学』河出書房、昭21・8。『北村透谷論』八木書店、昭45・4

- 佐山 濟 近代と古典―透谷をめぐる―（「静思」昭17・10）
- 矢崎 弾 北村透谷の恋愛観（「三代の女性」若い人社、昭17・10） 目次のタイトルによる
- 杉山平助 文学界の運動（「文芸五十年史」鱗書房、昭17・11）
- 馬場孤蝶 北村透谷君／眉山・緑雨・透谷／「文学界」のこと（「明治文壇の人々」三田文学出版部、昭17・10）昭23・6に東西出版社版
- 本間久雄 透谷と永遠の女性（「冬扇夏爐」青梧堂、昭17・11）
- 増田五良 一葉と「文学界」の人々（「馬薊亭雜記」五典書院、昭17・11）
- 小田切秀雄 文学確立の礎石―北村透谷の意味―（「法政大学新聞」昭17・11・10）↓「人間と文学」河出書房、昭21・8。「北村透谷論」八木書店、昭45・4
- 舟橋聖一 北村透谷（「文学と青年」潮文閣、昭17・12）
- （43）小島島水 阿佐谷文章（第二稿）（「女性時代」第14年第2号、昭18・2）「北村透谷未亡人」を含む。↓「小島島水全集」第12巻、大修館書店、昭62・9
- 山岸外史 北村透谷論（佐藤春夫・宇野浩二編「明治文学作家論」〈近代日本文学研究〉上巻、小学館、昭18・3）
- 太田三郎 北村透谷（「文化」第10巻第5号、昭18・5）
- 塩田良平 透谷、眉山、鏡花（「明治の作家と作品」人文書院、昭18・7）昭22・2に京都印書館版
- 矢崎 弾 高山樗牛と自我愛の拡充（「近代的自我の日本の形成」〈現代日本文学研究（一）〉鎌倉書房、昭18・7）
- 吉武好孝 「文学界」を中心とする人々及び其他の翻訳家（「翻訳文学発達史」〈語学文庫〉三省堂、昭18・7）

伊藤信吉 創造と成熟（『近代文学の精神』有光社、昭18・9）

榊原美文 文学界派評論瞥見（『静思』昭18・9）

平田禿木 『禿木遺響』文学界前後（四方木書房、昭18・9・18）昭58・4に日本図書センター（明治大正文学回想集成14）から復刻版

榊原美文 「文学界」派浪漫主義評論の展望―特に伝統的及び西欧的要素について―（『国文学研究』第18輯、

昭18・12）↓『近代日本文学の研究』御茶の水書房、昭31・6

（44）関 良一 藤村の劇詩（『国語と国文学』第21巻第1号、昭19・1）

太田三郎 北村透谷（二）―透谷と演劇改良運動―（『文化』第11巻第3号、昭19・3）

神保光太郎 北村透谷（『詩研究』第1巻第2号、昭19・7）

水野葉舟 藤村覚書（『明治文学の潮流』紀元社、昭19・9）

杉森久英 日本人北村透谷（日本文学報国会編『国文学叢話』青磁社、昭19・11）

付記

主な先行参考文献目録には次のものがある。

・神崎 清 北村透谷著作年表 附、研究文献（『明治文学研究』創刊号、昭9・1）

・山田博光（ほか）北村透谷研究文献目録（『文学』第24巻第2号、昭31・2）

・師井キヌエ 北村透谷 資料年表（『近代文学研究叢書』第2巻、光葉会、昭31・4）昭44・3に増訂版

・関 良一 北村透谷研究文献書誌（『明治大正文学研究』第24号、昭33・6）

- ・平岡敏夫 透谷研究主要文献目録（『北村透谷研究』有精堂出版、昭42・6）
 - ・小田切秀雄 参考文献（『北村透谷集』（明治文学全集29）筑摩書房、昭51・10）
- 本目録の作成にあたっては、以上のほか『国語国文学年鑑』（靖文社）、『国語・国文学編』（近代雑誌目次文庫）（ゆまに書房）などの二次資料を参考にした。